

1. 件 名：訓練のあり方及び規制の関与の検討に係る試行について

2. 日 時：令和5年10月6日 14:30～16:00

3. 場 所：原子力規制庁3階 室内会議卓

4. 出席者（テレビ会議システムによる出席）

原子力規制庁

緊急事案対策室

川崎企画調整官、反町専門職

専門検査部門

関企画調査官、岡村主任原子力専門検査官、

長澤主任原子力専門検査官

北海道電力株式会社

原子力事業統括部 原子力業務グループ 主幹 他1名

東北電力株式会社

原子力本部 原子力部 原子力防災担当 課長（専）

東京電力ホールディングス株式会社

原子力運営管理部 防災安全グループ マネージャー 他1名

中部電力株式会社

原子力部 防災・核物質防護グループ 課長 他2名

北陸電力株式会社

原子力部 原子力防災チーム 統括（課長） 他1名

関西電力株式会社

原子力事業本部 安全・防災グループ マネージャー 他4名

中国電力株式会社

電源事業本部 原子力運営グループ 副長 他1名

四国電力株式会社

原子力本部 管理グループ グループリーダー 他2名

九州電力株式会社

原子力発電本部 原子力防災担当次長 他5名

日本原子力発電株式会社

発電管理室 警備・防災グループ 副主任

電源開発株式会社

原子力技術部 運営基盤室（防災技術基盤）

総括マネージャー 他1名

原子力エネルギー協議会

副長

5. 要 旨

関西電力株式会社から、今年度試行を予定している保安規定に基づく現場シーケンス訓練と兼ねる事業者防災訓練について、資料1に基づき説明があった。

原子力規制庁から、以下のとおりコメントした。

- 時間計測することで時間を要した場合の分析に活用できるのではないか。
- 今回の訓練は必要な能力を超えた部分をさらに向上させるためのものであり、むしろ失敗するようなシナリオが良い。

関西電力株式会社から、コメントを踏まえて準備を進める旨の回答があった。

6. その他

配布資料：

- 資料 1 防災＋シーケンス訓練（B種）訓練試行の検討について（関西電力株式会社）